

文化遺産総合活用推進事業 実施報告

1 都道府県・市区町村名	島根県大田市	2 補助事業の種類	世界文化遺産活性化
3 実施計画の名称	石見銀山活性化事業		
4 実施計画期間	平成 30 年度	～	平成 34 年度 5年以内としてください。
5 過去の補助事業実績			
平成 23 年度文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業			千円
平成 24 年度文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業			千円
平成 25 年度文化遺産を活かした地域活性化事業			千円
平成 26 年度文化遺産を活かした地域活性化事業			千円
平成 27 年度文化遺産を活かした地域活性化事業			千円
平成 28 年度文化遺産を活かした地域活性化事業			千円
平成 29 年度文化遺産総合活用推進事業			千円
平成 30 年度文化遺産総合活用推進事業		2998	千円
6 計画の実施状況（概要） ※平成30年度までに実施した計画の実施状況を記載してください。			
<p>平成30年度事業については、世界遺産の受け入れ態勢を再構築、あるいはグレードアップを目的に取り組んだところである。まず第一に他の世界遺産に較べやや遅れ気味になっている、外国人観光客誘致を本格化するための外国語でのパンフレット類の整備である。そこで遺産の中心部である大森地区において、これまで未整備であった韓国語・中国語（繁体字・簡体字）の3カ国語のパンフレットを、温泉津地区においては英語・韓国語・中国語（繁体字・簡体字）の4カ国語のパンフレットを製作した。</p> <p>第二には、石見銀山の魅力発信力を維持・拡大するために、世界遺産を持つ近接地域との連携である。観光客は都道府県・地方圏などの行政区画を気にすることなく各地を移動する。その獲得のためには有力地域が連携し「エリア」としての競争力をつけることが必要であり、西日本の世界遺産連携（広島・廿日市・萩・石見・姫路）の考え方に立ち、首都圏や海外からの誘客、あるいは関西・広島・福岡などでの情報発信を円滑にする目的で、平成30年度は、JR大阪駅において共同PRとしてデジタルサイネージ広告による情報発信に取り組んだところである。</p>			
7 定量的な目標に対する計画の進捗状況 ※平成30年度までの進捗状況について、実施計画で設定した指標に基づき、状況値と目標に対する達成率を記載してください。（指標・目標値を複数設定している場合は、全て記載）。		別紙①②のとおり	
8 事業実施による効果等 ※平成30年度までの計画の実施により得られた効果や実施以後の状況（人数、理解度、活用状況、人材育成などの指標に基づき、定量的・定性的な効果）を具体的に記載してください。			
<p>石見銀山への外国人観光客の動向は登録以降徐々に微増してきており、特に東アジア地域からの観光客が主流であるものの、近年は欧米からの観光客が増えているという現状がある。制作した外国語パンフレットについては、世界遺産の中心部大森地区に位置するガイド施設である石見銀山世界遺産センターに、また温泉津地区のサテライトガイド施設であるゆうゆう館に設置した。特に、外国人観光客に対してはガイド施設の際に積極的に利用している。</p> <p>デジタルサイネージによる情報発信の効果については、情報を公開した期間は7日間、石見銀山は336,000回の映像を画面から発信した。JR西日本によればこの間の想定接触者数は671,000人であり、誘客につながる情報発信となった。</p>			
9 得られた効果の検証・分析			
<p>外国語パンフレットについては、外国人観光客のガイド施設への入館者数、パンフレットの利用数を定期的に検証し、パンフレットの内容などを含め継続的な分析を進めていきたい。</p> <p>デジタルサイネージによる情報発信は、現地で観光動態調査時のアンケート項目に入れて集計したところ、大阪駅で視聴したという回答は現在までのところなかったが、今後もアンケート項目に入れることとし、JR駅起点の情報発信の効果についての検証・分析を進めていきたい。</p>			
10 総括評価結果 ※実施計画期間終了の翌年度における総括評価の結果を定量的・定性的な側面から具体的に記載してください。			
<p>情報発信事業の手法として数多くあるバリエーションの一つが外国語パンフレット、デジタルサイネージによる発信であると位置づけると、パンフレットは基本的なツールとして引き続き取り組みたい。媒体の一つであるデジタルサイネージは費用対効果という点で効率的であるので、引き続き実施することで検証・分析を進めていきたい。</p>			

7 定量的な目標に対する計画の進捗状況 別紙

具体的な指標 1 :	外国人観光客数				関連事業 :	外国語パンフレットの整備	
目標値 1 :	平成 28 年度		3,944 人		⇒	平成 34 年度 6,350 人	
進捗状況 1 :	各年度、状況値、目標に対する達成率						
平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	平成 35 年度		
5,003 人	人	人	人	人	人	人	人
44%							
具体的な指標 2 :	石見銀山への観光客数				関連事業 :	JR 駅での PR	
目標値 2 :	平成 28 年度		313,600 人		⇒	平成 34 年度 485,000 人	
進捗状況 2 :	各年度、状況値、目標に対する達成率						
平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	平成 35 年度		
246,300 人	人	人	人	人	人	人	人
-39%							

7 定量的な目標に対する計画の進捗状況 別紙（関連事業）

事業①：	外国語パンフレットの整備					実施団体：	「世界文化遺産」地域連携会議・石見銀 山プロジェクトチーム				
事業区分：	情報発信					事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 30 年度				
事業概要：	まち歩きマップの作成（石見銀山大森地区3ヶ国語：韓国語、中国語（簡体字、繁体字）温泉津 地区4ヶ国語：英語、中国語（簡体字、繁体字）、韓国語）										
具体的な指標：	外国人観光客数										
目標値：	平成 28 年度		3,944 人		⇒		平成 34 年度		6,350 人		
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率										
平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	平成 35 年度						
5,003 人	人	人	人	人	人						
44%											
事業②：	J R 駅での情報発信					実施団体：	「世界文化遺産」地域連携会議・石見銀 山プロジェクトチーム				
事業区分：	情報発信					事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 31 年度				
事業概要：	・大阪駅にある30面のデジタルサイネージを活用し、石見銀山などの西日本・世界遺産をPR										
具体的な指標：	観光動態を把握するために定期的に行うアンケート調査項目に、「大阪駅で映像の視聴の有無に ついて」問うことで、来訪者数を指標として、効果を検証する。（サンプル数600人のうち2割を 関西圏からの来訪者と推定）										
目標値：	平成 28 年度		0 人		⇒		平成 34 年度		60 人		
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率										
平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	平成 35 年度						
0 人	人	人	人	人	人						
0%											